



挨拶する中江会長

左から海野選考委員長、徳江、笹井両副会長、秋山社長、粕谷東京代表

朝日旧友会誌

朝日旧友会

東京都中央区築地五―三―二
 朝日新聞東京本社内
 〒104-8011
 TEL 三五四五―〇一三一
 FAX 三五四三―三三三八

平成二十四年度総会日程

〔日時〕 新年総会 一月十九日(木)
 定時総会 五月二十四日(木)
 〔場所〕 朝日新聞記念会館(有楽町マリオン11階)

なごやかに定時総会開く

懐かしの仲間元気に集う

東京朝日旧友会の平成二十三年定時総会は、五月十九日(木)午後四時から有楽町の朝日記念会館ホールで開かれた。午後一時四十五分からの映画「必死剣鳥刺し」上映前には、懐かしい顔ぶれが続々と姿を見せ、なごやかな空気に包まれた。

総会には中江利忠会長、笹井輝雄、徳江景英両副会長はじめ会員二百七十人が集い、本社側からは秋山耿太郎社長、粕谷卓志東京代表ら役員・幹部四十人が出席、久方ぶり先輩、後輩の対面とあつて大いに盛り上がった。

文明が裁かれる国難に責任を 中江会長

創刊百三十年のブランドを後輩に 秋山社長

総会は森事務局長の司会で開会。まず中江会長が「3・11を乗り越えて」「メディアの責任自覚も」

と題して講演。「人間の生活を豊かにし、便利にした原発などという文明が裁かれている」と復興

構想会議の問題点を取り上げ、提起した。次いで森事務局長がこの一年に亡くなられた物故会員五

十七人のお名前を拝読、全員で黙祷した。会計報告の後、ことしは役員、幹事の改選年に当たたるため、海野武選考委員長から改選の経緯について報告があり全員の拍手で承認された。ついで今回で退任する笹井副会長と後任の大野功雄新副会長があいさつした。

最後に来賓として出席した秋山社長は「大震災を乗り越え強い朝日新聞をつくる。被災地の苦しみを全国に伝え、復興支援の報道で新聞の役割を果たす。多くの先輩が守り育ててきた創刊百三十年のブランドを後輩に引き継ぐ……」と語りかけた。

引き続き親睦のパーティー。会場はいつきになごやかに、笑い声が広がった。お好みの飲み物を手に夜八時半まで語らいが続いた。旧友の皆さまお元気で、またお会いしましょう。

「3・11」を乗り越えて メディアの責任自覚も

千年に一度の天災ともいわれ
る東日本大震災から二月月が経
過したが、被災者や国民が納得
のゆく復旧や復興には程遠い日々
が続いている。大地震、大津波、
原発事故と避難・賠償、風評被
害、景気・財政難などの多重苦
が政府、自治体、東京電力や関
連企業などの能力を超えて、あ
まりにも重くのしかかっている
からだ。今年一―三月のGDP
(国内総生産)も年率三・七%
の落ち込みになった。

震災後一カ月余りの四月十六
日午後、私は福島市で開かれた
ある合会に出席していた。社の
元編集委員、下村満子さんが立
ち上げた「生き方塾」の開塾式
だった。ご両親のルーツ福島県
で「男女共生センター」の館長
を十年務めた下村さんが、日本
人の心の再生を目指して前から
準備していた塾を、震災で一時
は躊躇していたが「この苦難の
時こそ」と励まされてスタート
させたものだった。

「復興構想会議」の問題
求められて激励のあいさつを
した私は、その二日前に発足し

た政府の「復興構想会議」(議
長 五百旗頭真・防衛大学校長
が原発問題を復興ビジョンの対
象から外したことを批判した。
なぜなら、同会議の冒頭であ
いさつした特別顧問の哲学者、梅
原猛氏が「原発が人間の生活を
豊かにし便利にした文明が裁か
れている『文明災』だ」とせつ
かく指摘していたからだ。この
下村さんの開塾式では、佐藤栄
佐久・前福島県知事のあいさつ
もあつた。佐藤氏は県のダム工
事の談合に関わった弟と関係し
た疑いで逮捕され、地裁と控訴
審の高裁でも執行猶予付きなが
らも有罪の判決を受けたため、
「取賄につながらず『天の声』は
発していない」と無罪を目指し
て最高裁に上告している。「検
察ストーリー」の取り調べの過
程で検事が発した宣言「知事抹
殺」をそのまま題名にして佐藤
氏が書いた本が、いまベストセ
ラーの一つになっている。

そしてこの本の中では二〇〇
二年、福島第一・第二原発で長
年にわたり原子炉回りのひび割
れなどの故障が隠蔽され点検記
録も改竄されて、原子力安全・

保安院も見逃してきた、との内
部告発を受けて、佐藤知事が当
時の東電の社長を辞任に追い込
み、国に原子力政策の抜本的見
直しを要求したいきさつも明記
されている。



中江旧友会会長あいさつ

「知事抹殺」の構図

欠陥だらけの福島原発や原子
力政策にノーを突き付けた地元
の知事が、結果的に権力から別
件で報復されたような構図が、
ここに浮かび上がっている。

そんな中、巨大地震の予想に
曝されている中部電力の浜岡原
発が、菅首相の要請を受けて全
機を停止させた。また首相は、
原子力を優先させた政府のエネ

ルギー基本計画を白紙に戻して
議論することや、原子力安全・
保安院を経済産業省から分離す
る方針も明言した。首相のパフ
ォーマンスにつきものの問題は
残ったものの、結果としては大
きな前進だった。

政府の復興構想会議もやっと
中間整理案の中に「エネルギー
戦略のあり方について抜本的に
再検討」を挙げるようになった。
本社もすでに四月十日、「脱・

戦わされたことである。結局は
「YES、BUT」、つまり安全
の条件を付けながら推進する方
向になった。

この議論の中で私は「NO、
BUT」ではいけないのか?と
疑問を呈したことがある。つま
り、どうしてもエネルギーが不
足してきたら研究するが推進は
しない、という考え方だった。

「脱原発」への道
今回の原発大災害より五カ
月前の昨年十月に参議院議員会
館で、「グリーンアクション」
や原水禁(原水爆禁止日本国民
会議)など民間団体が主催する
合会が開かれ、ドイツの「エネ
ルギーと原子力政策に関する独
立コンサルタント機関」のマイ
ケル・シュナイダー代表が講演
した。この中で彼は、地球温暖
化対策から浮上してきた「原子
力ルネサンス」の風潮に水をさ
し、米国での発電コストは太陽
光が原発に対して二〇一〇年に
同水準に、二〇二〇年には八分
の一にまで下がるとの見通しを
示した上、「集中型で融通性に
欠け専制的な原子力エネルギー
利用の継続は、持続可能なエネ
ルギー政策の実施にとって大き
な障害となる」と警告していた。
この「融通性の欠如」は今回
の事故でのメルトダウン(炉心

溶解)や汚染水の確認の誤りに
も、また復旧工程表のその場し
のぎの改定にもつながったし、
何よりも原発推進の「専制的」
な体制が問題の根源にあったこ
とを浮き彫りにした。さきの佐
藤・前福島県知事も「原子力政
策は国の民主主義の成熟度を測
る素材。日本のそれは官僚と電
力会社が操る全体主義のような
もの」だったと、「AERA」
特集号「原発と日本人100人
の証言」の中で語っている。

日本で現在一〇%程度の自然
エネルギーの割合を二〇二〇年
までに三〇%、二〇五〇年には
一〇〇%に上げる目標を掲げて
いる飯田哲也・環境エネルギー
研究所長は、日本の環境エネル
ギー政策が普遍知、実践知、統
合知の欠如という「知のガラパ
ゴス列島」の状態にあることも
指摘した。

今回は原発問題に絞って論じ
たが、菅内閣を中心とするこの
三つの知的行動の欠如こそ、今
回の復旧・復興の致命的な遅れ
の原因だともいえる。

大震災やエネルギーの問題に
取り組んできた本紙の足跡を反
省もし、この「困難」に対する
メディアの責任を自覚しながら、
旧友としても積極的に論議に加
わってゆきたいと思う。

社長あいさつ



社業報告する秋山社長

東日本大震災では、朝日新聞も仙台工場の輸送機三台が壊れ、うち一台は早期に復旧しましたが、残り二台は铸件に深い亀裂が入り、修復に時間がかかりました。被害が大きかった宮城、岩手、福島を三県を中心に、部数は約五万部が失われ、押し寄せる津波で店舗が全壊した販売店もあり、ご家族や従業員が流されて行方不明になるなどしました。被災地以外でも、本紙の広告や折込が減りました。私たちは被災地の苦しみを全国に伝え、復興を支援する報道を続けることで、新聞の役割を果たします。こうして旧友の皆様方のお元氣なお顔を拝見していると、大変に心強く思うと同時に、「こういう時こそ、朝日新聞は頑張れ」という皆様方のお気持ち伝わってきます。

本社の経営状況の報告をいたします。二〇〇八年秋のリーマンショックに始まる「長いトンネル」から、ようやく抜け出せるまでこぎつけました。今年三月の二〇一〇年度決算は、三年度で営業損益が黒字に転じ、最終損益もわずかですが黒字になりました。

右肩下がりの一直線だった広告収入の落ち込み、歯止めがかかってきたこと、社員の賞与削減など大幅な経費削減に努めたことなどによるものです。だが「長いトンネル」を抜け出た途端に、大震災による新たな困難と遭遇し、震災後は、再び広告収入が落ち込んでいます。震災復興が本格化するのは今年の夏以降になるでしょうが、日本経済が活性化して企業広告が戻ってくることを願っています。

長いトンネルの先に新たな困難 全国展開の専売網と電子版併立へ

行する日経新聞をよく研究させてもらいました。日経と違って朝日新聞には北海道の稚内から鹿児島の大島まで、全国に張り巡らせた専売網があるので、紙の新聞の販売に影響が出るようなことは避けねばなりません。その結果、紙の新聞と電子版との併読モデルを中心に、読者からいただく電子版料金の一部はASAに還元し、読者データの管理もお願いすることにしました。販売店側から見ると、「電子版によつて営業の幅が広がった」「これなら、新たな収益源となる」と受け止められるようにするこ

能な限りでの経営の先行きを示すための中期計画「ビジョン二〇一五」を策定しました。中核となる新聞事業については、「赤字にしない」という意味での收支均衡を目指し、紙の新聞以外の事業、つまり、デジタルや不動産、教育事業のことですが、これらで利益を上げて必要な戦力的投資の財源を確保していくという考えです。紙の新聞とともに、ニュースコンテンツを様々な媒体に発信していく、いわば「ハイブリット型メディア企業」として生きていく姿を想定しています。電子版の発行

新聞離れが広がり、「生活が苦しくなってきたので、新聞は要らない」という人が増えています。他の多くの業界と同じように、新聞業界も「強い新聞」が生き残り、「弱い新聞」が淘汰される時代に入ってきました。戦前の世に勝ち残るには、「強い新聞」になるしかありません。それは、商品力と販売力の勝負です。新聞業界を引っ張る立場にある朝日新聞と読売新聞との関係は、「競争と協調」ということにしています。互いに「協調」していくケースとしては、印刷の相互委託や過疎地の販売網での相互の「預け合い」などです。一方、「競争」する分野としては、紙面の中身、そして、首都圏と関西圏、福岡、名古屋、札幌の大都市圏、地方の県庁所在地などでの販売の戦いがあります。基本はライバル同士の生き残り競争です。朝日と読売が全国紙として、ともに生き残っていくのか、あるいは、どちらか一方だけが生き残るのか、厳しい戦いがすでに始まっています。

「教育」の分野では、「朝日小学生新聞」と「読売KODOMO新聞」の戦いが始まりました。これとは別に、新しい学習指導要領で「新聞の活用」がうたわれたことなどを踏まえて、本紙の教育記事の充実を図っていきます。年金改革についても、いざいざOBの皆様方とご相談させていただきます。創刊以来百三十年余りの間、諸先輩たちが「朝日新聞」というブランドに人生をかけ、後輩にバトンを引き継いできました。私たちの時代で、衰退させるわけにはいきません。私も、残る力を振り絞って、精いっぱい努力を続けてまいります。旧友の皆様方には、引き続きご支援と厳しい叱咤を賜りますようお願いいたします。

とを指しています。

パソコンのほか、iPadやアンドロイドOSを搭載するスマートフォンなど複数のデジタル端末で電子版が読めて、紙の新聞との併読の場合は一カ月千円です。無料のお試し期間を経て、実際に料金をいただくのは八月からです。少しずつ、着実に読者を増やしていき、初年度は約十万人、三年間で三十万人程度の読者獲得を目標としています。旧友会の皆様方にも、どうか協力をお願いいたします。震災によつて中期的な収益見通しが立てにくいのですが、可

は「ハイブリット型」のモデルケースでもあるわけですが、この先、紙の市場が小さくなっていく可能性があることも踏まえて、両方で常時、八百万を超える有料読者を確保して、日本の社会への影響力を維持していくという狙いもあります。

商品力と販売力で強い新聞を新聞協会の調べでは、日本の日刊紙の総発行部数は、毎年、概ね百万部くらいずつ減っています。その大半が統合地域です。地方の人口が減って、高齢化が進み、新聞の市場が縮小しているのです。都市部でも、若者の

新聞離れが広がり、「生活が苦しくなってきたので、新聞は要らない」という人が増えています。他の多くの業界と同じように、新聞業界も「強い新聞」が生き残り、「弱い新聞」が淘汰される時代に入ってきました。戦前の世に勝ち残るには、「強い新聞」になるしかありません。それは、商品力と販売力の勝負です。新聞業界を引っ張る立場にある朝日新聞と読売新聞との関係は、「競争と協調」ということにしています。互いに「協調」していくケースとしては、印刷の相互委託や過疎地の販売網での相互の「預け合い」などです。一方、「競争」する分野としては、紙面の中身、そして、首都圏と関西圏、福岡、名古屋、札幌の大都市圏、地方の県庁所在地などでの販売の戦いがあります。基本はライバル同士の生き残り競争です。朝日と読売が全国紙として、ともに生き残っていくのか、あるいは、どちらか一方だけが生き残るのか、厳しい戦いがすでに始まっています。

電子版目標はハイブリット型 待望の本社有料の「電子版（朝日新聞デジタル）」がスタートしました。朝日の電子版は、先

大震災で新聞の役割向上 東日本大震災の報道には力を入れました。宮城、岩手、福島

大震災で新聞の役割向上 東日本大震災の報道には力を入れました。宮城、岩手、福島

大震災で新聞の役割向上 東日本大震災の報道には力を入れました。宮城、岩手、福島

平成23年 定時総会出席者

会員出席者

(あ) 秋山康男 粟田房穂

阿部征夫 青木節夫

青山勇 浅井泰範

安部光俊 相沢守也

荒木忠直 荒木信義

粟田伊三雄

(い) 岩井弘安 岩松宰正

板垣誠 石岡統明

伊東義雄 稲永金仁

稲川伸 石井哲次郎

乾雄成 伊藤源之

稲木泰生 石川喜代司

伊藤壯

(う) 宇野勝己 海野武

梅本洋一 内山鶴雄

内山眞 宇野秀

(お) 大野功雄 大江廣

小野寺忠志 岡田肇

小野恵夫 大沢弘武

大重二夫 大島昭義

小笠原将 大塚一郎

(か) 金子保 加納安實

春日廣之助 神谷光雄

粕谷日出夫 川島正治

川辺久信 亀井正雄

川又健一 加藤次一

蒲田浩二郎 加藤嘉照

川原基尚 片岡久明

香月浩之 唐木田卓司

川戸弘次 片山朝雄

門倉浩一 軽部平

亀本泰夫 金子良三

加藤尚徳 叶内均

(き) 岸田隆秀 木代泰之

菊原睦夫 菊地正則

喜久村繁 菊地武

木下秀男 清時竹彦

(く) 黒河晃 黒川ハジメ

九原常雄 窪田喜三

栗原凌哉

黒田正純 熊木平治

(け) 煙山恵一

(こ) 近藤行雄 込山光雄

小林功 小林三千夫

五味秀雄 後藤清光

小坂健介 小杉弘

小山千宏 後藤豊

小林清吉 児玉浩憲

小林佐千雄 後藤襄

小松直 小西初彦

小林基美男

(さ) 崎川洋光 桜井孝子

笹井輝雄 坂井清保

斎藤幹雄 斎藤善男

左近允輝一 斎藤彰夫

坂巻武 佐々木博志

鮫島忠夫 作間敏夫

(し) 柴昭二 柴田眞樹

島田貴明 柴田鉄治

志村和雄 志賀浩

志村嘉一郎 清水勝

芝二美夫 柴田利夫

志村勇 芝實

(す) 鈴木聞二 杉谷隆司

鈴木益民 菅原道久

菅原義一 鈴木和夫

(せ) 仙名紀 善當治昌

田中右太生 竹内實昭

竹村文雄 詫摩俊一

竹田純 竹市義弘

田中健一 滝下修

多賀谷文夫 高橋勝行

谷口富喜男 高垣徹蔵

高橋清太郎 田口正治

高見弘保 田辺功

(ち) 千綿雅夫

(こ) 月成英信 辻徹哉

街風隆雄 角川和男

鶴谷守男

(て) 寺田眞文 寺田達雄

(と) 徳江景英 戸引和夫

豊田明 徳永哲哉

都丸司 富田順也

(な) 中江利忠 中島泰

中野晴文 中島富次

中野義次正 永田芳男

中村雅俊 中島清成

中野 劾 中島康勝

中北宏八 永田清春

(に) 蛭川真夫 二本柳典彦

二宮操一 錦織正文

(ね) 根津静男

(の) 野地一也 信澤秀男

(は) 初山有恒 林常蔵

長谷川敏郎 畠山弘道

服部豊男 羽生弘

長谷川大介 浜田隆

原孝治 畠山哲明

羽原清雅 原田利次

林荘祐

(ひ) 平賀義男 平松道弘

比留間悦雄 平野新介

菱沼保幸

(ふ) 福田喜大

(へ) 別府次郎

(ほ) 堀野典久 房園茂

堀内真人 星野富榮

(ま) 牧野詔正 松井茂

松本秀男 馬来勝彦

松山幸雄 牧野信彦

松本精次 牧大勝三

(み) 水木初彦 峯岸久雄

三野孝文 三宅勝喜

三露久男 溝部忠増

宮崎千勝 三浦昭彦

水野秋夫 宮崎仁一

水川毅 三田勇

宮内繁 宮坂秀一

(む) 村野坦 村田順一

宗田文隆 村田敬吾

村山朝夫 村山孝喜

(も) 森精一郎 諸寿子

森下昇 森田恭生

森修二 森治郎

(や) 山越英一 築場敏子

山崎利治 山本久二男

山崎悦孝 山田弘

柳瀬幸洋 山本祥之

山森久義 山村行志

山下道照 山崎英明

山下英昭 安中宏明

(ゆ) 雪江武雄

(よ) 横田稲光 吉田耕司

吉川宏 吉田成村

吉澤忠一

(わ) 渡邊宏 渡辺晋

渡辺幸男 和井田祐三

渡辺登 渡辺興博

会場に義援金箱 被災地に元気を

東京旧友会では「東日本大震災の被災者に元気を送ろう」と朝日厚生文化事業団と協力、総会会場に義援金箱を設置、浄財を募った。「これはいい計画だ。よくぞやってくれた！」と好評で、募金箱は、会員の愛情で満たされた。その結果七万五千七百六十円が集まり募金した。

新旧副会長あいさつ

旧友会の絆を大切に



笹井輝雄氏

笹井さん 二〇〇六年から六年間やりましたが、あつという間でした。現役とのパイプ役として旧友会発展のために尽力しようときまざま努力しましたが道半ばで心苦しい思いです。これからは旧友会の一員として「仲間」の絆を大切にしたい。後任の大野さんは人間味豊かで有能です。安心して任せられます。

仲間と手を取りあつて



大野 功雄氏

大野さん 伝統ある旧友会発展のため、微力ですが責務を全うしたいと思っております。わが社の前途には難問山積ですが、旧友会の仲間と手を取りあつて、乗り越えたいと思います。経験豊富な笹井さんの後任は大変ですが、先輩の名を恥ずかしめないよう精いっぱい努力します。よろしく願います。

役員・幹事決まる

新副会長に大野氏(広告)
新旧幹事拍手で承認

定時総会の重要議題となつて居る役員・幹事の選考経緯について、海野武選考委員長から報告があり、満場の拍手で承認されました。また海野委員長は、いつも隠れた功労者となつて居る選考委員諸氏の起立を求め「旧友会のためご努力ご苦勞様でした」とねぎらいの言葉を送り拍手を受けた。

新役員は次の通り

▽会長	中江 利忠	▽副会長	徳江 景英
▽同	大野 功雄(新)	▽事務局長	森 精一郎(新)
▽幹事	戸引 和夫	▽編集	別府 次郎
	村野 次郎		水木 初彦
	横田 稲光		崎川 洋光
	竹内 實昭		田中 右太生
	森下 昇(新)		金子 保
			高木 昭尚
			一力 英夫
			笹井 輝雄
			後藤 弘一
			初山 有恒
			月成 英信
			近藤 行雄
			坂井 清保(新)
			柴 昭二(新)
			本多 民明(新)
			桜井 孝子
			中島 泰(新)
			諸 寿子
			甚野 隆正
			山越 英一
			牧野 詔正(新)
			築場 敏子

ごくろうさまでした

平成22年度 会計報告書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	10,274,639		
総会会費(2回582名)	2,910,000	総会諸経費	4,458,507
総会寄付金(本社ほか)	4,210,000	会報製作・発送費(3回)	2,004,541
年会費(5名)	20,000	会務連絡費	3,354,780
終身会費(22名)	880,000	供花・弔慰費	414,200
会員寄付金(25社)	1,500,000	備品・事務用品費	23,142
その他の寄付(3名)	7,500	通信費・雑費	80,331
預金利子	10,937	振替口座手数料	16,690
		次期繰越金	9,460,885
計	19,813,076	計	19,813,076

平成二十二年度の会計報告があり、満場の拍手で承認された。会計報告は次の通り。

会計報告を承認



堀内真人さん、山森久義さん、秋山社長、中野勲さん、星野富栄さん



鈴木益民さん、中江会長、香月浩之さん



にっこり。樽酒も登場



石岡統明さん、斎藤善男さん、竹市義弘さん、大野功雄新副会長、小林三千夫さん



青木節夫さん、徳江景英副会長、門倉浩一さん



蛭川真夫さん、水木初彦さん、三露久男さん



定位置に集合、元技術部の人たち



相沢守也さん



岩松宰正さん、小林功さん、内山鶴雄、鶴谷守男さん



溝部忠増さん、錦織正文さん



田中健一さん、近藤行雄さん、安部光俊さん、乾雄成さん、吉川宏さん、服部豊男さん、小西初彦さん、吉沢忠一さん



金子保さん、煙山恵一さん、坂井清保さん、佐々木博志さん



志村和雄さん、木村伊量 広告・企画事業担当、秋山康男さん



豊田明さん、二宮操一さん、三田勇さん



斉藤幹雄さん、清水勝さん、稲木泰生さん、渡邊宏さん



左近允輝一さん、柴田眞樹さん



中村雅俊さん、山崎英明さん



大軒由敬論説主幹、森治郎さん



山本久二男さん



田口正治さん、崎川洋光さん



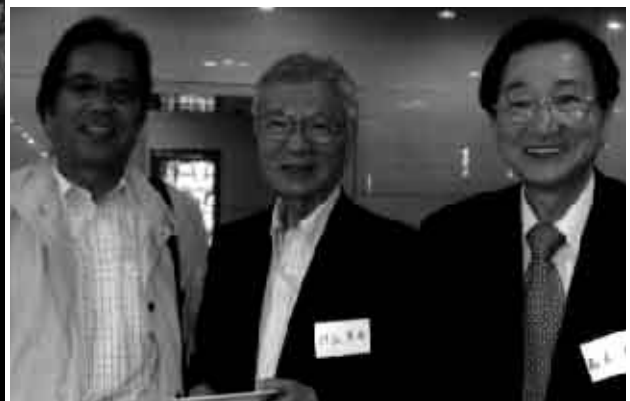
内山眞さん、伊藤源之さん、高垣徹蔵さん



旧友会員の皆さま、続々募金に登場。謝々々……。



田辺功さん、平野新介さん、羽原清雅さん



大江廣さん、村山孝喜さん、松本秀男さん



長谷川大介さん、木下秀男さん



平賀義男さん、鮫島忠夫さん



田中右太生さん、川原基尚さん、



宮崎千勝さん、房園茂さん、伊藤壮さん



志賀浩さん、渡辺登さん、岩崎進社史編修センター長、村田順一さん



福田喜大さん、中嶋康勝さん、松井茂さん、村山朝夫さん、菱沼保幸さん、渡辺晋さん



柳瀬幸洋さん、中島清成さん、林莊祐さん



菊原睦夫さん、都丸司さん、叶内均さん



熊木平治さん、梅本洋一さん、稲川伸さん